



吉野熊野国立公園大台ヶ原

西大台 利用調整地区 ガイド

ここにしかない自然
だから
ここだけのルール



環境省 近畿地方環境事務所

目 次

1. 西大台利用調整地区とは

吉野熊野国立公園 大台ヶ原.....	1
西大台利用調整地区について.....	2
守らなければいけないルール.....	3
美しい自然を守るために.....	5

2. 大台ヶ原を歩いてみよう

大台ヶ原マップ.....	6
大台ヶ原の動物.....	8
大台ヶ原の植物（樹木）.....	10
大台ヶ原の植物（草本）.....	12
大台ヶ原の菌類.....	14
色々な葉っぱ.....	16
動物たちのフィールドサイン.....	18
大台ヶ原の利用情報.....	19

3. もっと知りたい大台ヶ原

大台ヶ原の歴史をひもとく.....	20
大台ヶ原の森林の推移.....	22



西大台・ブナ林



西大台・ナゴヤ谷

大台ヶ原へようこそ！
ボクの住む大台ヶ原・西大台を
みんなに紹介します。
楽しい西大台体験をしてね！



西大台利用調整地区キャラクター
おおだいがはらさんしょうだゆう
大台ヶ原山椒大夫 君

1. 西大台利用調整地区とは

レクチャーを
はじめます。



吉野熊野国立公園 大台ヶ原

大台ヶ原は、吉野熊野国立公園の核心部に位置する標高1300～1695mの非火山性の隆起準平原です。年間雨量が4500mmを超える本州最多雨地域で、トウヒ・ウラジロモミ・ブナなどの自然林がまとまって残っており、ニホンジカ、カモシカなどの大形哺乳類をはじめ、多くの鳥類、両生類、昆虫類などが生息しています。



指 定：昭和11年2月1日
関係県：三重県、奈良県、和歌山県
面 積：59,798ha



■ 国立公園とは

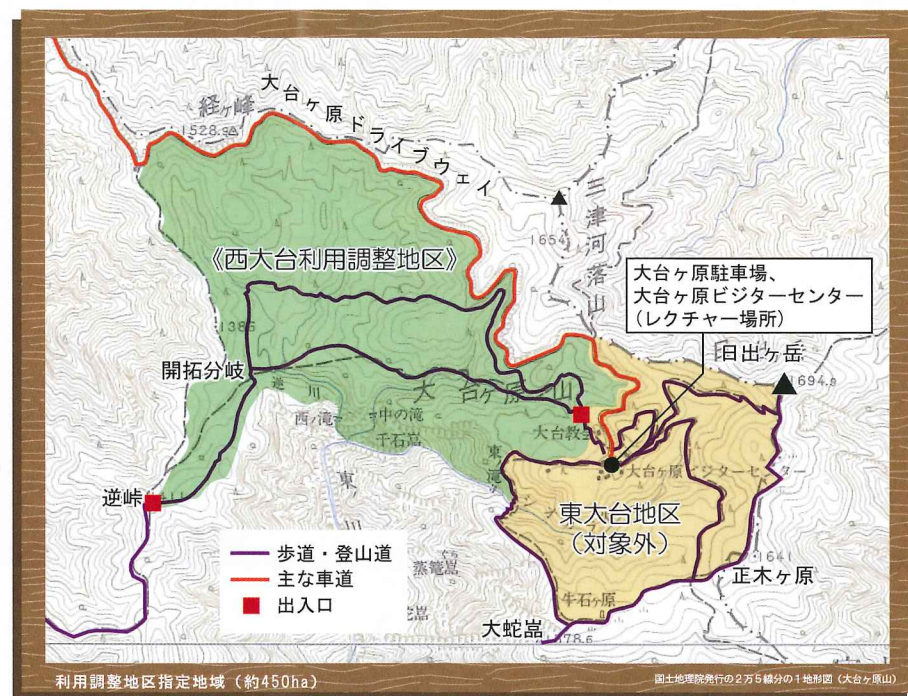
日本のすぐれた自然の風景地を保護するとともに、その利用の増進を図り、国民の保健・休養・教化に資することを目的として、「自然公園法」という法律に基づき環境大臣が指定する公園です。国立公園の管理は関係者の協力のもと、環境省が中心となって行っています。

西大台利用調整地区について

大台ヶ原は、トウヒ群落を主とする「東大台」と、ウラジロモミープナ群落を主とする「西大台」に大別されます。様々な要因により森林植生の衰退が進行しつつある大台ヶ原の中で、「西大台」は静寂で原生的な雰囲気を体験できる地域となっています。

この美しい自然環境を守り、将来にわたり静寂で豊かな自然を多くの方に楽しんでいただけるように、西大台は日本で最初の「利用調整地区」に指定されました（平成18年12月指定、平成19年9月より運用開始）。

「利用調整地区」とは、立入り人数等を調整する区域のことで、自然公園法に基づき国立公園特別地域内の一部地域に指定されます。立入りに当たっては事前に手続きを行い、定められたルールに従って自己の責任において利用することが必要です。



守らなければならないルール

西大台への立入りは登山や自然観察等で利用する目的に限られ、また、利用に当たっては以下のルールに従う必要があります。

禁止されていること



- ①無断での立入り
だーめ！ 勝手に立入り禁止！
ケチー
- ②ペットなどの生きた動物の持ち込み
ダメだよ！
フタコ
- ③野生動物にエサを与えること
食べちゃダメ！
フタコ
- ④動植物の捕獲・採取
行って来い！
フタコ
- ⑤ゴミの放置・廃棄
ダメ！
フタコ
- ⑥球技などの野外スポーツ
ダメ！
フタコ
- ⑦大きな音や強い光を発すること（花火・拡声器等）
うるさい！
フタコ
- ⑧網、竿その他動植物の捕獲及び採取のための道具の持ち込み
ダメ！
フタコ
- ⑨たき火・火入れ
ダメです！
絶対に

守らなければいけないルール(つづき)



その他禁止されていること

以下のことは「自然公園法」という法律で禁止されています。

- ・ 立入認定証を携帯せずに立入らないこと。
- ・ 利用調整地区の利用期間が1日を超えないこと。
- ・ 10人を超える団体で利用しないこと。
- ・ 事前レクチャーを受講せずに立入らないこと。
- ・ 工作物の新築・改築・増築をしないこと。
- ・ 土や石、鉱物を採取しないこと。
- ・ 広告物その他これに類する物を掲出、設置しないこと。
- ・ 土地の形状を変更しないこと。
- ・ 木竹の伐採、損傷、植栽（種子を蒔くことを含む）をしないこと。また、落葉若しくは落枝を採取しないこと。
- ・ 木竹以外の植物（山菜、きのこを含む）を採取、損傷、植栽（種子を蒔くことを含む）しないこと。また、落葉若しくは落枝を採取しないこと。
- ・ 動物を放たないこと。
- ・ 動物を捕獲、殺傷しないこと。また、動物の卵を採取、損傷しないこと。
- ・ 屋外において物を集積、貯蔵しないこと。
- ・ 火入れ又はたき火をしないこと。

美しい自然を守るために

西大台の美しい自然を守るため、以下のマナーを守って散策をお楽しみください。

歩道の踏み外しに注意！

- 西大台は平坦な地形が多く、歩道をはずれると遭難するおそれがありますので、歩道から出ないようにしてください。また、硬い靴で踏むとコケなどが傷んでしまいます。
- 歩道を歩くときは縦に一列になり横に並んで歩かないようにしましょう。
- 歩道が狭いところでは、原則登り優先で譲り合いましょう。

休憩・お弁当の時も自然を大切に！

- 休憩やお弁当の時は、他の方の迷惑とならないような場所で、また、動植物に影響が少ない場所をお願いします。
- ゴミは必ず持ち帰ってください。また、食べ物の残り汁などを流さないようにしてください。

トイレは事前にすませよう！

- 西大台は一周約4時間かかり、その間トイレはありません。トイレは駐車場周辺のトイレで済ませてください。その際はトイレ清掃協力金をお願いします。

野生動物はそっと見守ろう！

- 野生動物に出会ったら、そっと見守ってあげましょう。エサをあげたり、刺激を与えるようなことはしないでください。
- 大台ヶ原は、ツキノワグマの生息域です。十分に注意してください。

2. 大台ヶ原を歩いてみよう

準備OK?



大台ヶ原は駐車場を起点として、西大台・東大台をそれぞれ一周することができます。道に迷わないように気をつけて、大台ヶ原を堪能してください。

西大台利用調整地区

開拓跡

この一帯では明治時代に何度か開拓が試みられましたが、厳しい自然条件のため頓挫しました。約100年の歳月を経て、現在は森林に戻っています。

このあたりは道が不明瞭になっています。迷わないように気をつけてください。

林の下が開けた、心地よい平地の道が続きます。

バイケイソウの群落があります。

キノコのような形をしたミズナラの巨木があります。

急な坂道になります。ブナに加え、トチやヒノキの巨木が多く見られます。

中ノ谷
林下に「ヤブレガサ」という植物が多く見られます。

このあたりはブナやミズナラなどの広葉樹が多く、野鳥やシカの姿もよく見られます。

沢沿いのこの道では、ミソサザなどの野鳥がよく見られます。

苔探勝路

大台ヶ原の豊かな雨が育てた、様々な種類の苔を見ることができます。一周約0.7km、所要時間15分程度です。

正木ヶ原

立ち枯れたトウヒの風景が現れます。野生のシカがよく出没します。

牛石ヶ原

昔このあたりにいた牛鬼という怪物を高僧がとらえて、封じ込めたと伝えられる牛石があります。

大蛇ヶ

約800mの断崖絶壁の上にあり、大蛇の背に乗ったようなスリルを味わえます。眼前には大峯山系のパノラマが広がります。春の新緑や秋の紅葉の頃が特におすすめです。

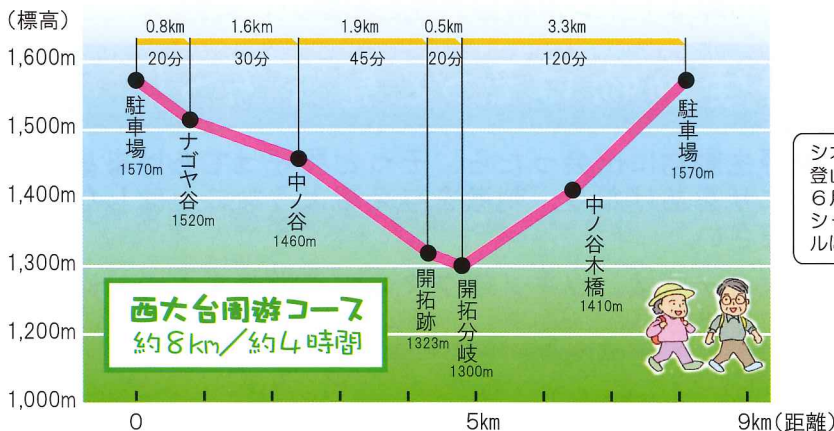


展望台

正面には大蛇ヶ、左下には中ノ滝が見えます。



大台ヶ原を歩いてみよう



- 出入口
- 眺望地点
- ながり
- 沢・川
- 文化資源
- 利用施設
- 植物のみどころ



0 100 500 1000m

S = 1 : 20,000

大台ヶ原の動物



ニホンジカ (シカ科)

森林に出現し、採食のために周辺の草地や伐採地に出てきます。大台ヶ原では、個体数が高密度で生息しています。



コマドリ (ヒタキ科)

林の中にいる鳥で、雄は「ヒンカララ…」と馬のいななきに似た声で高らかにさえずるためにこの名前がつけました。体長15cm程度。



オオダイガハラサンショウウオ (サンショウウオ科)

大台ヶ原をはじめ国内の限られた地域にしか生息しない生物です。4～5月中旬に川の源流で産卵します。体長14～20cm程度。



写真提供：杉山 敦 氏

ミソサザイ (ミソサザイ科)

渓流の岩の上などで昆虫を捕まえたり、大きな声で「チリリリリ」とさえずる姿が見られます。体長10cm程度の小さな鳥です。



写真提供：杉山 敦 氏

ウグイス (ウグイス科)

「ホーホケキョ」と大きな声でさえずります。藪の中にいることが多く、雌雄同色でオリーブ褐色をしています。体長15cm程度。



ナガレヒキガエル (ヒキガエル科)

三重、奈良など本州の一部に生息し、4～5月頃に渓流の中で産卵します。オタマジャクシは流れのある所で生活し、やすいように口が吸盤になっています。体長7～17cm程度。



タゴガエル (アカガエル科)

本州・四国・九州で生息し、4～5月頃に渓流近くの伏流水で産卵します。人目につかないので生態については分からないことが多い種です。



アサギマダラ (タテハチョウ科)

オス・メスとも色彩や斑紋はほとんど同じです。カモメヅル、キジョランなどのガガイモ科を食草としています。5～10月にみられます。前翅長は53～62mm。



写真提供：(財)自然環境研究センター

トリカブトハムシ (ハムシ科)

猛毒の植物トリカブト類だけを食べます。卵を成熟させたメスは黄色いおなかをふくらみ、飛ぶことができません。体長4～6mm程度。



エゾハルゼミ (セミ科)

体は黄褐色で頭と胸に黒い紋があります。6月中旬～7月初旬に西大台のブナ林で多く見られます。体長オス31～33mm、メス22～24mm程度。



写真提供：(財)自然環境研究センター

オオダイセマダラコガネ (コガネムシ科)

大台ヶ原で発見された中型のコガネムシです。セマダラコガネと似ていますが、こちらのほうが一回り大きいです。体長10～13.5mm程度。



写真提供：(財)自然環境研究センター

オオセンチコガネ (センチコガネ科)

ルリ色のコガネムシ。動物の糞に集まり、メスは地中へ糞を埋め込んで産卵します。幼虫は糞を食べて育ちます。体長14～20mm程度。

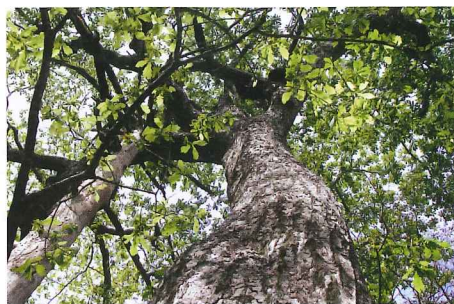


大台ヶ原の植物 (樹木)



ブナ (ブナ科ブナ属)

温帯域に生育する落葉高木。樹皮は灰白色で地衣類がやコケ植物が付着します。果実はネズミやクマなどの食料となります。



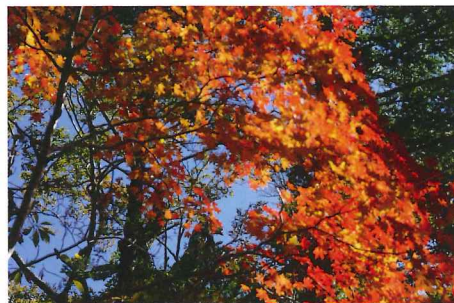
ミズナラ (ブナ科コナラ属)

温帯域に生育する落葉高木。樹皮は淡い灰褐色で縦に不規則な割れ目があります。5月頃に花を咲かせ、秋にはドングリがなります。



アサノハカエデ (カエデ科カエデ属)

低山の林の縁に生える落葉低木で、別名ミヤマモミジと呼ばれています。葉が麻の葉に似ているので、この名前がつけました。



オオイタヤメイゲツ (カエデ科カエデ属)

低山の林内に生える落葉高木。花は初夏に咲き秋には美しく紅葉します。樹皮は灰白色で縦に裂け目があります。



オオカメノキ (スイカズラ科ガマズミ属)

ブナ林や高山の針葉樹林内に生えることが多い落葉の小高木。卵円形の葉が亀の甲羅に似ているといわれています。4月下旬～6月に白い花を咲かせます。



カマツカ (バラ科カマツカ属)

山中にみられる落葉小高木。材が硬く丈夫なため鎌の柄に使われたのでこの名があります。4～5月に可憐な花を咲かせ、秋には赤い実をつけます。



ヤマボウシ (ミズキ科ヤマボウシ属)

山地に見られる落葉高木で、夏に花を咲かせます。白い花びらのように見えるのは総苞片と呼ばれるもので、中央に球状に密集しているのが花です。



トチノキ (トチノキ科トチノキ属)

おもに冷温帯域の山地に生育します。葉は大きく掌状に分かれており、5～6月には大型の白い花を咲かせます。



ヤドリギ (ヤドリギ科ヤドリギ属)

ブナ・ミズナラ等の落葉高木に寄生します。粘液を含む実は鳥によって運ばれ樹木の枝にひっつき、発芽すると根を張り水分と養分を吸収します。



ヒメシヤラ (ツバキ科ナツツバキ属)

山地に自生する落葉高木。とくにブナ林との混生が多く見られます。直径2cm程度の白い小さな花を初夏につけます。



ツタウルシ (ウルシ科ウルシ属)

落葉つる性木本。ブナ林などに生育し、気根を出して他の樹木の幹などをよじ登ります。触るとかぶれるので要注意です。



ミヤマシキミ (ミカン科ミヤマシキミ属)

山地に生える常緑低木。厚く先端の尖った葉はアルカロイドを含み、有毒です。果実は赤く熟します。



大台ヶ原の植物 (草本・シダ・コケ類)



ユキザサ (ユリ科ユキザサ属)
広葉樹林内に生えます。笹のような葉をして、初夏に雪のように白い花を咲かせるためにこの名前がつけました。秋には赤い実をつけます。



ツクバネソウ (ユリ科ツクバネソウ属)
落葉広葉樹林の林床や山道沿いに生育する多年草。4枚の葉の中心に黒い果実が付く様子を羽根つきの羽に例えこの名前がつけました。



ギンリョウソウ (イチヤクソウ科ギンリョウソウ属)
湿気のある腐植土にはえる多年草。葉緑素を持たず栄養分を自ら生産できないため、根には菌類が共生し、これによって養分を吸収しています。



バイケイソウ (ユリ科シュロソウ属)
山地の日の当たる湿った草原などに生育する多年草。初夏に高さ1m以上にもなる花茎を出し、夏に花を咲かせます。地下茎は有毒です。



タカクマヒキオコシ (シソ科ヤマハッカ属)
山地の木陰に生える多年草。夏から秋にかけて野球のグローブのような形の青紫色の花を咲かせます。



カワチブシ (キンポウゲ科トリカブト属)
有毒植物として有名なトリカブトの仲間で、山地の林に自生する多年草です。夏～秋にかけて紫色の花を多数付けます。



ワチガイソウ (ナデシコ科ワチガイソウ属)
山地の林下に生える多年草。花茎には毛があり、細長く先の尖った葉をしています。4～6月に星形の白い花を咲かせます。



ショウキラン (ラン科ショウキラン属)
ブナ林などの林床に生える多年草。ギンリョウソウと同じく、葉緑素を持たない腐生植物です。夏に淡紅色の花を咲かせます。



ホソバトウゲシバ (ヒカゲノカズラ科ヒカゲノカズラ属)
全国各地の山林に見られる常緑のシダ植物です。葉は細く、針葉樹の芽生えのように見えます。夏に茎の上部の葉腋に黄色い胞子のうをつけます。



ヤブレガサ (キク科ヤブレガサ属)
山野の林下などに多く自生しています。掌状に裂けた葉が傘を開く感じに開くのでこの名が付けられてました。



ヒメミヤマスミレ (スミレ科スミレ属)
山地の樹陰にはえる繊細で小型のスミレです。葉は先端が尖り波状の鋸歯があります。初夏に紫色がかかった白い花を咲かせます。



セイトカスギゴケ (スギゴケ科スギゴケ属)
スギゴケ科の中で最も大型のコケで、亜高山帯の林床に多く見られます。葉の表面に縦に並ぶひだ(薄板)があるのが特徴です。



大台ヶ原の菌類



オオチャワンタケ (チャワンタケ科チャワンタケ属)
茶碗のようなかたちをしたキノコです。春または秋に堆肥や落葉の積もった土の上に群生します。全体的にもろい肉質です。



ドクベニタケ (ベニタケ科ベニタケ属)
夏から秋にかけて針葉樹林、広葉樹林内の地上に発生します。傘は淡赤色から赤色で、中央がややへこんでいます。



チョウジチチタケ (ベニタケ科チチタケ属)
夏から秋にかけ広葉樹林の林内に発生する赤褐色のキノコ。乾燥すると生薬のチョウジに似た香りがすることから名づけられました。



キイボカサタケ (イッポンシメジ科イッポンシメジ属)
夏から秋にかけて林床にみられます。全体が黄白色をしており、傘の頂端に突起があるのが特徴です。



オキナクサハツ (ベニタケ科ベニタケ属)
夏から秋にかけてブナ林などの地上に発生します。かさ表面にたくさんのシワがあり、悪臭があります。



ホコリタケ (ホコリタケ科ホコリタケ属)
夏から秋に林内の地上に発生します。成熟すると茶褐色から灰褐色に変色し、頂部に孔があいてそこから孢子が飛び出します。

多様な森林が分布する大台ヶ原では、多くの種類のキノコを見ることができます。形や色、生えている場所などは様々で、季節によっても見られるキノコも変わります。



コガネヤマドリ (イグチ科ヤマドリタケ属)
あざやかな黄金色をしたキノコで、遠くからでも目立ちます。夏～秋に広葉樹林の地上に発生します。



タマゴテングタケモドキ (テングタケ科テングタケ属)
夏から秋にかけて針葉樹林や広葉樹林の地上に発生します。傘はくすんだ橙黄～黄土色です。猛毒。



ヒナアンズタケ (アンズタケ科アンズタケ属)
夏から秋に広葉樹林の地上に発生します。小形で全体が黄色です。傘ははじめ半球形で、後には中央がくぼみ平らに開きます。



コビチャニガイトケ (イグチ科ニガイトケ属)
夏～秋にコナラ林などの林内地上に発生します。傘の表面はビロード状ではじめはオリーブ色をしており、傷ついたところが褐変します。



ヒメベニテングタケ (テングタケ科クリタケ属)
夏～秋にブナ、ミズナラなどの広葉樹林の地上に発生します。小型のキノコで、つぼも傘のイボも美しい赤い色をしています。



マルミノフウセンタケ (フウセンタケ科フウセンタケ属)
夏から秋にブナ等の広葉樹林の地上に発生します。傘は灰褐色から粘土色で紫色を帯びており、傘の基部はこん棒状にふくらみます。

色々な形の葉っぱ



ブナ

葉は互生。葉の縁は波状の浅い鋸歯があり、鋸歯のへこんだところに葉脈がつながっています。



ミズナラ

葉は互生で、はっきりした鋸歯があります。歯の裏には細かい毛がはえています。



オオイタヤメイゲツ

葉は対生。深い鋸歯があります。掌状の葉はたくさんの切れ込み(9~11裂)があります。



ツタウルシ

葉は3枚一組で互生。若木の時、粗い鋸歯があることがありますが、成木には鋸歯はありません。



ウラジロモミ

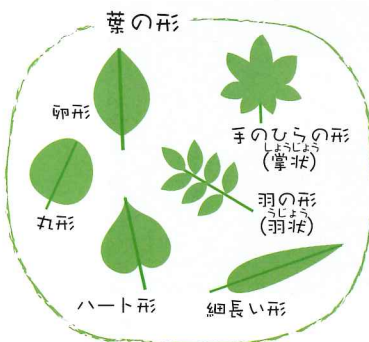
葉の先端は丸いかやや窪んでいます。葉の裏には2本の気孔線があるために、白っぽく見えます。



トウヒ

葉の先端は尖っています。ウラジロモミと同様に葉の裏に2本の白い気孔線があります。

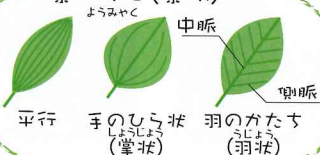
葉っぱのここに注目!



葉の緑のギザギザ

葉の緑のギザギザを鋸歯(きょし)といいます。

葉のすじ(葉脈)



葉の付き方



互いに違いに生えているものを互生(ごせい)、対になって生えているものを対生(たいせい)といいます。

いろいろな葉っぱを比べてみるとおもしろいよ。



幹の表面を見てみよう(樹皮)



ウラジロモミ

灰色~灰褐色で、鱗片状にはがれます。若枝は黄褐色をしています。



トウヒ

灰色がかった暗赤褐色で、鱗片状にはがれます。



トチノキ

黒褐色で、大きな波形の模様があり、大きく割れてはげ落ちます。



ヒメシャラ

淡赤褐色でなめらかな光沢があり、小片がはげ落ちてまだら模様になります。

種から出た芽(実生)



ブナ



サワグルミ



オオイタヤメイゲツ



ツタウルシ



ウラジロモミ



トウヒ

動物たちのフィールドサイン

誰の残したもののかな？



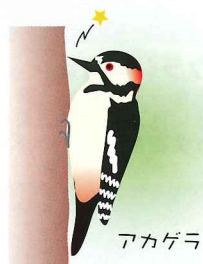
ブナの虫こぶ

虫こぶとは、植物の内部にタマバエなどの虫が卵を産み付けることにより、植物の組織が異常に発達してできるこぶ状のものです。ブナ林では4～5月に見られます。幼虫が羽化すると、虫こぶは地上に落下します。



キツツキの穴

キツツキが木の幹にあけた穴です。巣を作るため？それとも木の中にいる虫の幼虫を食べるためでしょうか？大台ヶ原では、アオゲラ、アカゲラ、オオアカゲラ、コゲラなどのキツツキ類が見られます。



アカゲラ



カケスの羽根

カケスはカラス科の鳥で、林の中で見られます。体長30cm程度と大きく、しわがれた声で「ジェー、ジェー」と鳴きます。青く美しい羽根は、地面に落ちていると目立ちます。



この羽根！



リスの食痕

リスがウラジロモミの種を食べた痕です。大台ヶ原にはニホンリスが生息しています。注意して見ていると、他にも様々な動物が樹木の幹や草木の葉などに食痕を残していますよ。

誰が通った跡かな？



タヌキ

ネコと似ていますが、ツメの跡がはっきりしています。長さ3.5cm、幅3cm程度。



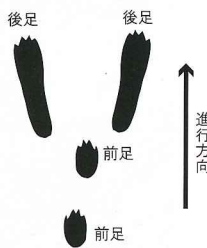
イタチ

5本指でツメの跡も残ります。長さ3～4cm、4cm、幅3～3.5cm程度。



ニホンジカ

2つのヒツメの跡が残ります。長さ6～7.5cm、幅5～3.5cm程度。



ノウサギ

雪の上では後足が前足よりも前につきます。後足の長さ15cm程度。

*走っているか歩いているかで足跡のつきかたも違います。

大台ヶ原の利用情報

安全で快適な登山を楽しむための情報を紹介します。

大台ヶ原山頂大君の
すぐに役立つ耳より情報



駐車場付近に西大台利用調整地区の総合案内標識を設置しています。ご覧ください。

トイレは駐車場に2箇所あります。ご利用の際には、トイレ清掃協力金をお願いします。



駐車場は約200台の収容数です。GW、お盆、紅葉のシーズンは大変混雑します。近鉄大和上市～大台ヶ原山頂まで運行している奈良交通の路線バスをご利用下さい（所要時間約1時間50分）。

■奈良交通吉野営業所の電話番号：0747-52-4101

大台ヶ原ビジターセンターでは、大台ヶ原に関する自然情報を提供するほか、自然観察会なども行っています。ぜひお立ち寄りください。

■開館時間：午前9時～午後5時（毎年11月下旬～4月下旬は冬季閉鎖）
■電話番号：07468-3-0312



3. もっと知りたい大台ヶ原

歴史や自然のお話だよ



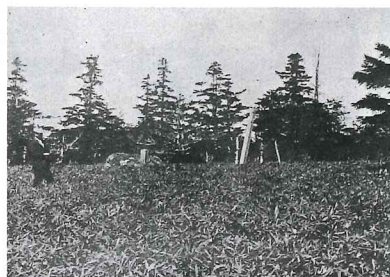
大台ヶ原の歴史をひもとく

雨や霧が多く発生する大台ヶ原は、妖怪の棲む山として長い間恐れられていました。江戸時代には天領として、修験者入山、幕府による薬草の採取、紀伊藩による探査の他は、人の立入りもほとんどありませんでした。

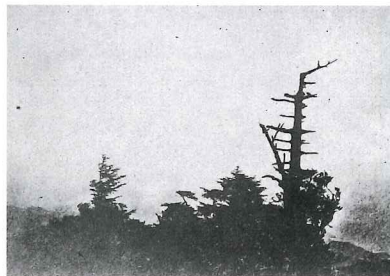
明治期になると、西大台で開拓を試みる者が現れましたが、寒冷と多雨、日照不足などで開拓事業は失敗に終わったといわれています。その後、探検家や修行者らの調査探索により入山ルートの開拓が行われ、登山者の山として脚光を浴びるようになりました。しかし、大正期以降製紙会社などによる大規模な伐採も行われたため、昭和11年に大台ヶ原が国立公園に指定されました。

昭和36年には大台ヶ原ドライブウェイが開通し、一般の観光客も訪れるようになり、現在では、年間15万人前後（大台ヶ原ビジターセンター調べ）の人々が訪れています。

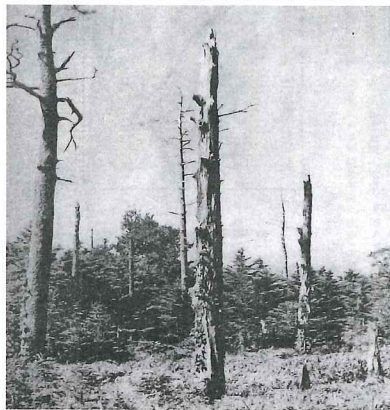
大正～昭和期の 大台ヶ原風景



牛石ヶ原天武天皇御手洗池付近の全景
（出典：大正12年発行『世界の名山大台ヶ原山』）



日出ヶ岳の曙光
（出典：大正12年発行『世界の名山大台ヶ原山』）



（出典：昭和24年発行『大峯と大台』）



大台ヶ原の開拓の森
（出典：昭和30年発行『国立公園紀行』）



大台教会の本堂
（出典：昭和30年発行『国立公園紀行』）



牛石ヶ原
（出典：昭和30年発行『吉野熊野国立公園とその附近』）

大台ヶ原年表

1606年(慶長11)	天台僧 丹誠上人入山の記録(北山由緒記)
1720年頃(享保年間)	幕府探乗使等、数回にわたり入山
1869年(明治2)	京都宇治興聖寺、開拓のため入山。一年余りで失敗(開拓記録)
1874年(明治7)	大峯行者林実利、入山修行
1885年(明治18)	松浦武四郎、登山
1891年(明治24)	古川嵩、入山修行
1893年(明治26)	古川嵩、大台教会建設に着手、32年完成
1895年(明治28)	日出ヶ岳山頂に1等三角点標設置、博物学者白井光太郎、植物調査
1898年(明治31)	土倉庄三郎登山道(現伐場歩道)開設、大台教会近くに雨量観測所設置
1911年(明治44)	オオダイガハラサンショウウオ発見
1917年(大正5)	四日市製紙(株)東大台の森林伐採着手。ヒノキを中心に約200haにわたって伐採(～大正11)
1920年(大正9)	農商務省山林局、気象観測所設置
1922年(大正11)	内務省、国立公園指定予備調査のため入山
1925年(大正14)	大台～河合間に有線電話開設
1928年(昭和3)	牛石ヶ原に神武天皇銅像建立
1936年(昭和11)	吉野熊野国立公園指定
1940年(昭和15)	同公園計画決定、大台ヶ原特別地域指定、大杉谷探勝路開設
1941年(昭和16)	関西急行(現近鉄)青年寮開設
1944年(昭和19)	大台教会に陸軍分遣隊駐屯
1955年(昭和30)	気象庁、気象観測所設置、大台ヶ原地区内のイトザサが開花・枯死
1959年(昭和34)	伊勢湾台風によりトウヒ林風倒被害
1961年(昭和36)	大台ヶ原ドライブウェイ開通(有料)、第2室戸台風により森林風倒被害
1962年(昭和37)	大台荘完成
1964年(昭和39)	大台ヶ原集団施設地区指定
1965年(昭和40)	大台ヶ原ビジターセンター開設、本州製紙(株)森林伐採計画が具体化、自然林保護運動が活発化
1969年(昭和44)	大台ヶ原の自然を守る会発足
1974年(昭和49)	奈良県が大台ヶ原地区671.55haを本州製紙(株)から買収、奈良県が大台ヶ原集団施設地区24haを本州製紙(株)から寄付採納、大台ヶ原地区美化促進協議会発足
1975年(昭和50)	奈良県が大台ヶ原地区142.41haを宮本重信氏から買収
1980年(昭和55)	ユネスコがM. A. B. 計画生物圏保護地域に指定
1981年(昭和56)	大台ヶ原ドライブウェイ一般県道に移管
1982年(昭和57)	環境庁が「大台ヶ原原生林における植生変化の実態と保護管理手法に関する調査」を奈良県自然環境研究会に委託
1984年(昭和59)	環境庁が「特定自然環境地域保全計画策定調査」を日本野生生物センターに委託
1985年(昭和60)	奈良県が昭和50年買上げ地を環境庁に移管
1986年(昭和61)	環境庁がトウヒ林保全対策事業を開始
1988年(昭和63)	第1期パークボランティア講習会開催 吉野熊野国立公園の公園計画再検討を終了、ニホンジカ生息動態調査を国立公園協会の補助で実施
1992年(平成4)	大台ヶ原ビジターセンター開設
2002年(平成14)	大台ヶ原自然再生事業開始
2006年(平成18)	西大台利用調整地区を指定

大台ヶ原の森林の推移

昭和34年の伊勢湾台風による大量の風倒木とその搬出を契機に、正木峠などの稜線部では、林冠を覆う木々が減少したことにより林床が乾き、それまで林床を覆っていたコケ類は衰退し、代わってミヤコザサが繁茂し始めました。また、大台ヶ原ドライブウェイの開通による公園利用者数の増加が、その衰退を加速したと考えられます。倒木更新により森林を維持していた亜高山帯針葉樹林では、苔むした倒木・根株が減少したため、実生の生育が困難となり、後継樹が育たず衰退し始めました。

昭和30年代、周辺部での伐採面積拡大によりミヤコザサが拡大し、それにともないシカの個体数が増加しました。周辺部で増加したシカは、造林木の生長により餌が少なくなったことから、ササの分布域が広がりました。このような複合的な要因により現在も森林植生の衰退が進行しています。

そこで現在、大台ヶ原の森林生態系の保全再生を図るとともに、利用の「量」の適正化と「質」の改善のための取り組みが展開されています。「西大台利用調整地区」もこの一環として行われているものです。

美しい自然環境を守りながら、より豊かな自然体験を楽しむようにみんな協力してね。

大台ヶ原の風景の変化



昭和38年(1963年)の正木峠

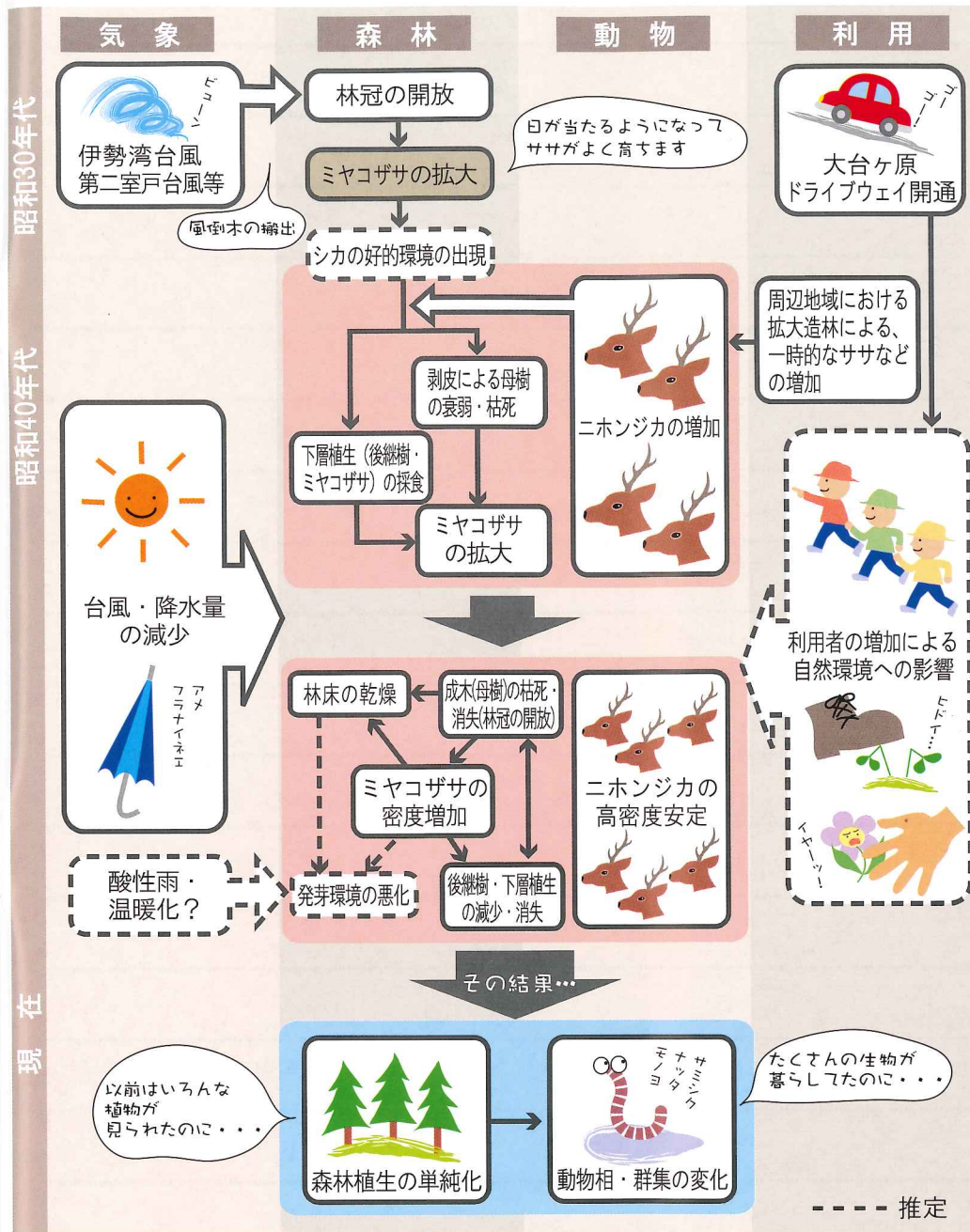


平成9年(1997年)の正木峠



現在(2006年)の正木峠

大台ヶ原における森林衰退の流れ(推定)

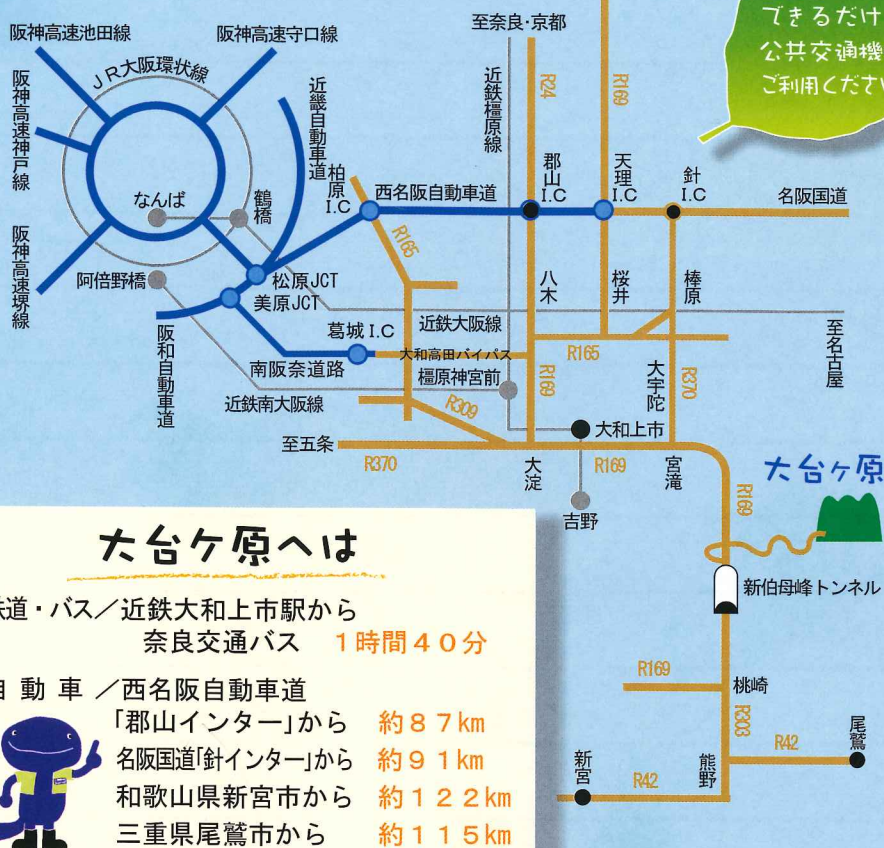


[illegible]

This image shows a full page of a worksheet designed for handwriting practice. It features approximately 20 horizontal dashed lines spaced evenly across the page, providing a guide for letter height and placement. The background is plain white, and there are no other markings or text present.

アクセスマップ

CO2削減のため、
できるだけ
公共交通機関を
ご利用ください。



大台ヶ原へは

- 鉄道・バス / 近鉄大和上市駅から
奈良交通バス 1 時間 40 分
- 自動車 / 西名阪自動車道
「郡山インター」から 約 8 7 km
「名阪国道」針インターから 約 9 1 km
和歌山県新宮市から 約 1 2 2 km
三重県尾鷲市から 約 1 1 5 km



申請窓口・手続きなどに関する問い合わせ

上北山村商工会 HP: <http://www.shokokai.or.jp/kamikitayama/>

〒639-3701 奈良県吉野郡上北山村大字河合360-8

TEL: 07468-3-0070 電子メール: kamikita@m5.kcn.ne.jp

受付: 平日 8:30~12:00 13:00~17:00 (8月13日~16日、12月26日~1月5日を除く)

その他の問い合わせ

環境省吉野自然保護官事務所

〒639-3111 奈良県吉野郡吉野町大字上市2294-6

TEL: 0746-34-2202

受付: 平日 9:00~12:00 13:00~17:00 (12月29日~1月3日を除く)